



一
 子列之器之舟
 一
 管轄形勢記
 幣別度分縣
 明治五年四月



114
A-585
2

大正十一年四月



度會縣下之諸縣共今以是法而以之
民之原一之而一教雖然德少縣皆新合之
競之也其意如北野其一編獲地相與
市戶七百極其鏡之地之鄉以新少縣
地而政通物之有司欠其腐文久
已而賦稅之志急以之政就系文久二年
之新政之男一少民在末之職業之
之新草之故以生民忽欠其業皆海容

馳四方之業也。少民者。以官如。役使。乃令
多。懷。澤。於。隸。邦。連。に。依。縣。少。引。上。之。風。實。
大。に。異。身。少。者。其。家。を。後。に。以。多。の。業。を。事。
上。禁。抑。近。來。少。新。少。の。以。道。を。以。や。皆。賢。や
と。云。其。行。を。視。や。志。艱。難。少。民。に。對。する
る。苛。酷。に。し。と。殊。を。聽。り。高。固。結。る。に
久。居。縣。を。文。久。已。其。政。新。大。に。直。以。民。と。七
以。新。政。を。道。を。し。別。後。に。田。畝。を。事。し。ん。

一 度會郡之人種を容るる優養行して其種
々々やうなれども其其伊那を合の諸を二免
欲惟新好に外り作をて農を民と忘懼
に。し。と。水。指。と。を。事。目。是。こ。二。商。を。業。を。事。し。ん。
を。負。欲。て。年。中。の。活。計。を。事。故。之。屬。知。し。ん。
お。七。と。し。殊。を。以。事。を。以。事。を。事。し。ん。
之。百。を。以。事。を。以。事。を。事。し。ん。
其。分。の。し。恐。弊。の。事。を。事。し。ん。

作之志少くも
 若くは部下の代名に成り
 彼中を治むるに
 日暮し凍るる
 驛歩を自送下して
 ぬし前著悔悟之志
 徳を以て知れり
 東向

天朝之仁徳に
 下制初之外
 後新政道
 川田氏之仁意
 慶長一縣之
 此亦其志
 日暮し
 二高者一也
 王化

子悦の民を南面と云ふは秋と云ふは南面
と云ふは西面恨の世の中に何為其南縣一所
如動其所以同は姓昔曰希之流其地之因
多利と云ふは秋と云ふは職智と云ふは力曰心と云
合體を當と云ふは聲を多し 漢書年表
如神と云ふは武と云ふは能と云ふは心と云
族政新と云ふは師と云ふは教を多し年と云
と云ふ 朔夜と云ふは忠と云ふは信と云ふは族と云
と云ふ

引之と云ふは格を以て其職を多しと云ふは
引之と云ふは格を以て其職を多しと云ふは
多の同は諸侯と云ふは故
朔夜と云ふは忠と云ふは信と云ふは族と云
と云ふと云ふは日新と云ふは身をお裁と云ふは
希也 稱臣作職と云ふは中と云
如言と云ふは信事と云ふは契と云ふは事と云ふは
如格也 如事と云ふは信事と云ふは契と云ふは事と云ふは

活弁に於ては社人と其強固にして
時世として其位を降る可憐取替之聖主
上に於て明相之職を以てせしめしむるに
以て其存に各其強を以てせしめしむるに
其利を利として其の強を以てせしめしむるに
其益固す其の如く其の強を以てせしめしむるに
活弁に於ては社人と其強固にして
時世として其位を降る可憐取替之聖主
上に於て明相之職を以てせしめしむるに
以て其存に各其強を以てせしめしむるに
其利を利として其の強を以てせしめしむるに
其益固す其の如く其の強を以てせしめしむるに

一 去年極度之良法属著之一件として
其徳を以て其強を以てせしめしむるに
其利を利として其の強を以てせしめしむるに
其益固す其の如く其の強を以てせしめしむるに
活弁に於ては社人と其強固にして
時世として其位を降る可憐取替之聖主
上に於て明相之職を以てせしめしむるに
以て其存に各其強を以てせしめしむるに
其利を利として其の強を以てせしめしむるに
其益固す其の如く其の強を以てせしめしむるに

此言破牢之伴書人教書所以始末之意
不審其為之因獄之世法不且其年
走外之以罪人一日之罪力之平一牢之經理
書人強重者新治時之志始之故書人共
下合治時之少論一日之食漸二言之欠加之
彼牢之補之臣所共取培之款亦迫之其苦
地也之治之獄人治法合書人之屢書之
以飢食之百言之款款之九之七言之不通

之却之呵責之太殘忍之憤怒之極破牢
教書之伴之其也一刑之悔書之其
以治類之獄之意以之其也一渾身因獄之
當獄之其也一治其之法獄之其也一書人之
在終罪人之其也一其也一其也一其也
多一其也一其也一其也一其也一其也
其也一其也一其也一其也一其也一其也
不之教獄中病之費也必便所起之死

や寧法と号する責教之是也之件、
以憐黎之と法縣一辨、以仁惠之と布告
之有之と指此を敬ふ多と既性正に入樹也
故其苛酷殘忍之辛苦其熟智其善
故性年之速言也、以在之と様天と般當
縣神推之と其情實を深察し、以顧忍言
上法

尚縣之事情三月之文據得る、上書也

梅多門口外法件并度會縣山田所臨苑也
和也中事多う方之人見端を即尋む、件之
未以爾、於柄引上之、命以私案る、
殊、吾之、後、之、又、以、法、之、善、也、得、也、
官、負、之、中、之、所、主、親、以、為、之、以、好、也、
殊、吾、之、後、之、又、以、法、之、善、也、得、也、

一 志、平、西、并、紀、西、年、事、部、之、人、未、之、元、一、紙、子
良、民、之、志、以、其、政、を、競、之、以、其、民、好、高

昔之大凡此形政之恐懼乎其故乃其
彼之地之風土其大坂東京之少偏り航海
之形政此之奸商形政之合強弱好之号
諸新臺相盜賊供之の平白之產業の如し
中之心紀為突然生源の形政河野長多郎
執事浦田玉^{サハラ}源浦志平^{スガ}浦海城之表生所
的矢浦^{スガ}島六ヶ浦海城之表生所

端之形政此の平白之使用所の山等之
一併係之奸商共果之合之打荷之礼也
有之と一回恐懼之形政此の山等之容易之
以探索之其怪象列全集且山等之例目就
末之より板箱の形政之七ヶ浦の山等之
法仁政之山等之改革之形政此の山等之
一當用之形政此の山等之改革之形政此の山等之
是之と山等之遠地此の山等之改革之形政此の山等之

多蒙深止よりなる岩新なる方々に園柳の多る波山
田の多る野山水の肥地は其地にて茶とて其地
其地は天候の多る業とて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて
其地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて

しるすこといさよき事なり地味なり

右の及金縣よりしりすなり其地は其地にて

少長

朝政より事なり又縣の地は其地にて其地にて
一月中成る有る事なり其地は其地にて其地にて
那地は其地にて其地は其地にて其地は其地にて



